タガメの展示と繁殖について

森永 和希（島根県立宍道湖自然館ゴビウス）

タガメは，カメムシ目コオイムシ科に属し，体長が 4～7 ㎝にもなる日本最大の水生昆虫である．カマ状の太い前脚を使い，魚やカエルなど自分より大きな生物を捕えることができる．捕えた生物の体に針状の口を差し込み，消化液を流し込んだあと，溶けた肉汁を吸う．寿命はおよそ 1 年と短いが，飼育下では 2～3 年生存することもある．

タガメはかつて田んぼを代表する昆虫であったが，生息地の悪化や農薬の影響により個体数が減少し，全国的に絶滅のおそれのある昆虫のひとつとなっている．島根県では，比較的個体数が確認されているものの，必要時に採集できる保証はなく，ゴビウスでも野外個体群に圧力をかける採集は可能な限り自粛している．そこで，飼育しているタガメを館内で繁殖させ，毎年夏期に新成虫を得ることで数年先までの展示を維持する方法を採用している．当館での飼育と繁殖方法のほか，得られた幼虫や新成虫を活用した展示方法について紹介する．

脱皮直後のタガメの幼虫